

J A 西三河いちじくスクールの取組について

～関係機関が共同で取り組む、いちじく産地の新たな担い手づくり～

木本 直樹（西三河農林水産事務所農業改良普及課西尾駐在室）

【平成31年1月28日掲載】

【要約】

愛知県は全国1位のいちじく産地である。しかし、近年生産者の高齢化や担い手不足による産地の縮小が課題となっている。そこでJ A西三河は、新たな担い手確保の取り組みとして、J A西三河いちじくスクールを開講した。スクールでは、最長2年間、いちじく栽培についての講義と、専用の圃場での実技指導を受けることができる。開講後、平成29年度までに11名がいちじく生産者として就農し、282aのいちじくが新植された。平成30年度も6名が参加し、うち3名は平成31年度就農に向けて準備を進めている。

1 はじめに

愛知県産のいちじくは栽培面積、収穫量及び産出額全て全国1位である（平成27年産特産果樹生産動態等調査及び平成28年産生産農業所得統計調べ）。そのなかで、J A西三河は、近隣のJ Aあいち中央、J Aあいち豊田と広域共販組織「西三河いちじく部会」を形成し、ロット拡大による有利販売を実現している。

しかし、近年いちじく生産者の高齢化、担い手不足に伴う生産力の低下や産地規模の縮小が大きな問題となっている。そこでJ A西三河は、いちじくの新たな担い手確保の取組として、平成27年4月に「J A西三河いちじくスクール」（以下「いちじくスクール」という。）を開講した。農業改良普及課は、いちじくスクールの開講当初から運営や受講者の指導に携わっており、関係機関と共同で新たな担い手づくりに取り組んでいる。

2 活動概要

いちじくスクールは、就農する際には、J A西三河いちじく部会に加入し、いちじくを生産・出荷することを入校条件とし、最長2年間受講することができる。受講者は、いちじく生産者として必要な知識と、芽かきやせん定などの管理作業を身につけるため、年間を通して講義と実技指導を受けることができる。講師は、農業改良普及課およびJ Aあいち経済連が担当し、J A西三河が所有する専用のいちじくほ場で実技指導を実施する。講義と実技指導は月1～2回程度開講され、収穫期には、スクール生が交代で毎日収穫実習を行う。

いちじくスクールの講義内容や活動方針は、部会役員とJ A西三河、J Aあいち経済連、西尾市、愛知県など関係機関で構成され、定期的で開催される「J A西三河いちじく産地振興会議」で協議し決定する。また、農業改良普及課は市と協力して、青年等就農計画の策定の働きかけや就農給付金の活用を進めるなど、関係機関がそれぞれの立場で受講生に対し就農に向けた支援を行っている。



写真1 苗木の植え付け実習の様子

3 活動結果

平成 27 年度のいちじくスクール開講以来、平成 29 年度までに計 43 名が受講し、うち 11 名がいちじく生産者として新規就農した。また、合計 282 a のいちじくが新植された（平成 29 年度 J A 西三河生産実績調べ）。平成 30 年度も J A 広報紙等で新規受講生を募集したところ、青年や定年退職者など新たに 6 名が集まり、平成 29 年度から引き続き受講している 5 名と合わせて受講生は 11 名となった。うち 3 名は平成 31 年度就農に向けて準備を進めている。



写真2 かさかけ作業実習の様子

4 今後の取組

いちじくスクールによる担い手づくりの取組は、平成 31 年度までに計 14 名の生産者を確保できる見込みである。今後も新規受講生の募集が計画されており、引き続き新たな担い手の確保に取り組む。また、今後はいちじくスクール修了後の生産者が、いちじく栽培者としてしっかりと産地に定着することが重要である。農業改良普及課は、J A 西三河と共同で、平成 31 年度から就農後 3 年目までの生産者を対象とした講習会の開催を計画している。今後も関係機関が共同で産地の担い手確保、育成に取り組んでいく。